

平成26年度 第5回 プロジェクトチーム・スリープレイ

議 事 録

日時/会場：平成26年11月26日（水）14:00～16:00 / 役場臨時庁舎3階第2会議室

出席委員：谷順二、小島幹生、山田由理子、堀井美也子、穴原奈都、菊地健一郎

菊池和式、浅沼浩希、菊地直彦

欠席委員：壬生貴則、平野光男、平松勝憲、関健太郎

事務局：北川係長、鈴木（記録）

1. 会議資料

- ①要綱と規約の一部変更について
- ②平成26年度 島コンツァーの報告について
- ③定住促進対策事業提案書の作成について
- ④その他について

2. 要綱と規約の一部変更について

谷会長：要綱と規約の変更について事務局から説明を。

事務局：スリープレイの活動の中で島への定住促進等が重要という意見が挙がってきていたが、要綱と規約にそれに関するものがないという指摘を受け、今回変更案を提案。設置要綱第2条に（5）「島への定住人口の増加及び促進に関すること」を追記。また、第11条の事務局長を「空港港湾対策担当課長」から「総務課長」に変更。規約の7に「島への定住人口の増加及び促進に関する振興策を立案する」「定住促進及び誘引事業の企画及び実施」を追記。これは今まで委員にしてもらっていた事だが書面上になかったので追記。

谷会長：質問、意見等は。

全委員：なし

谷会長：では決定とする。

事務局：では本日付で施行。

3. 島コンツァーの報告について

谷会長：穴原委員から説明を。

穴原委員：9月13日から15日まで「出会いたいコース」「暮らしたいコース」の2コースを実施。出会いたいコースは17名の申込みで12名が参加。暮らしたいコースは16名の申込みで12名が参加。申込みから参加者が減った理由は、連絡が取れずその後の申込みが受けられなかったため。今後の反省として連絡のない人は自動的にキャ

ンセルするなど、キャンセル待ちなど参加したい人が申し込めるようにしていきたい。ビオアイランドネットワークに今回も委託し、開催準備として企画運営サポートや集客宣伝、女性参加者への事前フォローのイベントを実施して男性プロフィールビデオを公開。当日は2名が来島し参加者の添乗業務、記録撮影を行った。終了後のフォローやアンケートの集計結果を報告書で提出してもらった。業務実績は資料参照。集客宣伝にはチラシやWEB作成、facebookへの投稿やWEB媒体への記事掲載が行われた。また、村経由で小金井市報にも掲載された。当日は朝日新聞記者が同行し、夕刊に掲載。アンケート集計結果から、今ツアーを知ったのは知り合いからの紹介が多かった。

出會いたいコースの参加者は色々と興味があったようだが男性との出會いを求めてきた参加者は少なく、「三宅島に行きたい」「値段の安さ」で参加した人も多く、募集の仕方などが今後の課題ではないか。ただ、そういった理由の参加者も気になる男性がいたと回答しており、出會いのきっかけとしては十分効果があったのではないか。

暮らしたいコースへの「島への移住について情報収集をどのようにしているか」という質問では多くがインターネットで検索している事が分かり、今回もインターネット募集なので若い年齢層の参加者が集まったのでは。田舎暮らしの雑誌等も最近増えているが、それらを利用するのはシニア層が多いのではとのことで、若い人をターゲットにするならインターネットでの告知が有効ではないか。暮らしたいコース参加者に三宅島で実際に暮らしたいかと聞いたところ、楽しかった、三宅島に魅力を感じたという人は多かったが、条件が合えばすぐにも暮らしたいという人は少なく、色々な地域を探してみても将来的に三宅島に住んでもいいという人が多かった。ただ、ツアー終了後2名がリピーターとして来島し、紹介した就職先で面接等を実施しているとも聞いている。Facebookでも交流が続いており、三宅島のファンを作るという意味では非常に効果的だったのでは。担当者所感は資料のとおり。収支は浅沼委員より報告。

浅沼委員：収支については資料のとおり。残高が若干あるので、色々な人の意見を聞くなど次回島コンに向けた形で予算を執行できればと実行委員では考えている。年度区切りがありなかなか動き辛いところもあるが、ホームページも立ち上がっている状態なので、その辺の方針や動き出しをビオと連携して何か次回につながる事に使いたい。もう一点は、アンケートや意見が女性だけで男性側の意見聴取がうまくいっておらず、男性側にも、もう一つ予算を使いたいと考えているので了承いただきたい。また、定住に関して実行委員で話し合った時、コースを分離して事業を実施したいと話し合われた。後の定住の話でも出てくるが、次年度は婚活一本で行った方が良いという意見で実行委員ではまとまっているので、各委員でもう一度考え検討してほしい。なお、暮らしたいコースで来た1名が正大に面接に訪れ3月から来るという事になっているので、結果として定住につながる様な形が取れたのではないかと。

谷会長：実行委員の中で反省会を一度実施した。細かい点については済んでいるが、予算前までの話の中で、来年はこうした方が良いという意見はあるか。

小島委員：実行委員でも話したが、今回は誰がどこを担当とはっきり決まっていなかった部分があり、業務委託契約する時にしっかり決めた方がいいのでは。広告宣伝にして

も、もう少しお金があればもっとできただろうし。

浅沼委員：業務委託の内容をもう少し明確化した方がいい。

谷会長：企画などは2回行ってきてほしい洗練されてきたので、組織の内部的な問題であるとか、例えばこれ以降に別の組織が運営するとしてもそれにつながるようなものを作っていかなければいけないかもしれない。全体としてだが、反省会を行うのが遅すぎるので、実施後2週間以内など初めから決めておいた方がいい。そうすればもっと活発な意見交換ができる。

小島委員：今回2つのコースにスタッフが分かれ、マンパワーが両方とも足りない状況になってしまったので、できれば来年は出会いたい一本で行いたいと思う。

浅沼委員：予算も若干あるので、来年につながる事を考えたい。男性参加者の数も減ってきているのでその辺りへの告知とか、笹塚の店にこの前に行った時に、女性側から来年度はどうなっているのかという内容の問い合わせが来ているという事だったので、早めにホームページなどで受け皿を作って連絡を取り合っていければ、継続的な告知も可能になるのでは。ホームページを年間通して運用することも考えてはどうか。

谷会長：来年度の詳細については3月頃にまた・・・予算が決まるのはまた5月頃か？

事務局：実績があるのでもう少し早いのではないかと。決定は4月頃になると思う。

谷会長：3月頃に実行委員会を開くので、全体としての流れや時期、出会いたい、暮らしたいコースの事などで皆の意見があれば。今回別荘を借りられ、拠点があつて我々も動きやすかった。花火もすごく良かった。具体的には実行委員で詰めるので。

穴原委員：9月の開催は時期としては良かったのではないかと。

谷会長：その時より遅いと台風が来ていてできなかった。

穴原委員：台風シーズンというリスクはあるが、夏場はイベント準備の関係で無理だと思う。

谷会長：そうすると8月の終わりか9月になるか。

穴原委員：準備が夏ということもあり大変だった。

浅沼委員：流れさえ分かっていたら大丈夫ではないか。

谷会長：手広くすると難しいかもしれないが、ある程度確立してきて、あの場所を拠点とするなら多少忙しい時期でもできるのでは。

穴原委員：拠点があつたのはすごく良かった。来年も貸していただけるのか。

谷会長：使ってくれと言ってくれているので大丈夫だと思う。結果が出てきているので、私のところにはお褒めの言葉もきている。事務局からは何かあるか？

事務局：国にも確認しているが交付決定は早くも4月10日頃の日付で可能との事。それ以降なら広告等も出せるので今年よりも早く動きだせるのではと考えている。

浅沼委員：そうすると6月開催も可能。6月か9月のどちらかではないか。

谷会長：話は戻るが今年度についてはどうするか。実行委員では、来年度につながるもの、特に男性側のものがないのでそこで使ってもいいのではという事と、この会議は1カ月ほど伸びてしまい、メールで意見を募集したが無かったので、この場で意見があればお願いしたい。無ければ実行委員が言った方向で良いのではないかと。と思うが。

浅沼委員：どちらにしても男性側から何人か呼んで意見を聞かないと、全く男性側の意見が

反映されていない。

小島委員：誰を呼ぶのか。どうやってピックアップするのか。

浅沼委員：意見を言ってくれそうな人を選べばいいのではないか。

谷会長：全員に案内を出せばいいのではないか。

浅沼委員：男性側の意見を来年に反映させたい。アンケートはなかなか書いてくれない。ビオと連携して告知を打つなり、ホームページ運営を活発化するなどしてはどうか。

小島委員：リピーターで来てくれた人をもう一度呼ぶのはどうか。

谷会長：執行時期は遅くていつまでにすればいいのか。

事務局：実績報告の関係で2月末までにはしてもらいたい。

谷会長：出会いたいコースの女性と男性の、次年度に向けたリサーチという方向でいいか。

穴原委員：ビオにはリサーチとホームページの運用という話でいいのか。

浅沼委員：どれ位予算が必要かを確認し、残りで島内男性側リサーチの仕方について考える。

谷会長：では穴原委員からビオに確認をとってもらいたい。

浅沼委員：ビオからも他の提案があれば是非言ってもらいたい。

穴原委員：了解。

小島委員：何をするかここで決めるのか。もう一度会議をするのか。

浅沼委員：結果を報告すればいいのではないか。

谷会長：ビオの方も色々と携わっているので、意見を持っていると思う。

穴原委員：WEBでプラットフォームを作り、皆が書き込めるような掲示板を作ってはどうかという話しも出たが、それを誰が継続して運営していくかが問題となった。今は出会いたいコース、暮らしたいコースの参加者同士や、島で出会った女性達と自主的にやりとりをしてくれているので、その辺りの交流は自主性に任せようと思う。

浅沼委員：ホームページは興味を持ってくれた人への対応だけでいい。

小島委員：facebook ページは今でも見てくれている人はいるが、ツアー後の更新はしていない。私と穴原委員が管理人となっているが、我々が管理しなければならないのか。

穴原委員：ビオが情報を発信するとなっても、島の情報を発信しなければ意味がないので、その時に情報や写真などの連絡はくる。

小島委員：そこで委託なりでしてもらうのがいいのではないか。

浅沼委員：WEB対応として、継続的な告知と更新はしてもらいたい。

穴原委員：バイクレースや産業祭、アイランダーなどの情報はアップできる。ただ現状としてホームページは10月にサーバーとの契約が切れているので一度閉じている。

Facebookは残っている。ホームページは内容がまた決まれば復活することはできる。

谷会長：穴原委員が協会として運営してもいいのでは。今までは開催前の2カ月間しか出していなかった情報を通年で出せれば、参加者も準備や調査などができ入り込みやすいのでは。その辺も踏まえ、穴原委員とビオで調整してもらい、年内に一度実行委員会で詳細を詰めた方が良いのではないか。

浅沼委員：内容を固めてから実行委員会を開く。

穴原委員：島の中はどうか？

谷会長 : 穴原委員とビオの提案で良いものがあればそれだけでも構わない。

4. 定住促進対策事業提案書の作成について

谷会長 : 事務局から説明を。

事務局 : 前回提案した三宅島における人口増加事業について、赤字で記入したものを今回追記。内容としては、農業者、漁業者の平均年齢と今回の島コンのアンケート結果反映、そのまとめを追記。ただ、三宅島に暮らしても良いと回答した人数がアンケートの人数と違っているのもう一度ビオに確認してもらい訂正する。

谷会長 : 該当者は「条件を整えば暮らすと思う」、「今後島に複数回来てから決める」、「将来的に暮らしても良いと思う」人達を集計すれば良いのではないか。

浅沼委員 : 複数回答となっているので、アンケートの基礎資料があれば人数は把握できる。

事務局 : 人数は確認後に反映する。その後、スリープレイの提案として短期滞在型施設を設置してはどうかという提案となっている。また、ビオからの提案項目も反映している。最後にアンケートの回答の中で三宅島へ移住するにあたり不安に思っている事として人との交流や、コミュニティになじめるかどうかという意見が多かった。仕事と住居の他に島民を紹介できるような体制が村として取れるような専門の職員を配置する、もしくは担当課を設置してはどうかという要望を挙げてまとめている。

谷会長 : 話が前後するが、今回の暮らしたいコースでは特に応募の段階でかなり深い質問する方が何名かおり、ツアー当日の朝、参加者に「縁故を作るという事を目的としていて、就職や住居の斡旋はしないが可能な事は紹介する」という話をした。その後、島に来た2人と話す機会があった時に、定住促進を進めるのに他の町村には担当課があるという話がでた事もあり、だからという訳ではないが実行委員会の時にも我々がこういう事を行っていくのは難しいところがあるので、定住促進を促す窓口が行政の中にあつた方が良いという意見がでたので今回追加した。

事務局 : もう1つの資料で同様の取り組みをしている他町村を列挙している。そこに問い合わせたものを「その他」に記入。実際に専門の職員がいる所はなく兼任、若しくは民間主体で行っている。短期滞在を行っている所は定住につながっていることが多かったが、入居条件は各地で様々。例えば奥多摩町などは受け入れターゲットを絞り混んでいて、色々な取り組みをしている印象であった。

沖山委員 : 定住促進課など対応しなければならない時に担当を決めて行う事が多いがなかなか機能しない。結局は全課に精通した課長や昔から島にいる人でなければ難しい。

事務局 : スリープレイの提案書の中では島に呼ぶターゲットを絞り込んでおらず、短期滞在型施設に入った人にどこまで紹介等をするかという事もあまり明言していない。

谷会長 : そこはあくまで行政がする事で我々はその手伝いをしていく。今回島コンでこういった問題が起き、我々では手に負えないので行政にお願いしたいという事で良いのでは。人口増のために島民や行政が力を入れていくなれば、行政に形がないといけないうだろう。方法については行政が我々にイベント等を促すのが順序ではないか。

浅沼委員 : 移住者を行政としても受け入れた方が良いのではという問いかけなので、枠組み

はこれからの話になってくるのでは。移住者に向けた体制がないのが現状なので。そこで移住者に向けて予算を割いたり、動きを付けていった方が良いのではという提案だから、そこまで止めておいた方が良いのでは。また、婚活のまとめの中で、2コースを行ってみた結果、婚活と暮らすという定住促進事業は分けるべきであるという提言も盛り込んだ方が良い。婚活をすればこうなるという形になり、並列のまま婚活で流れていくから、行った結果、婚活と定住促進は別として単体すべきだという提言にした方が。参加者にもそういった意見が多く、この2つは同時進行はしにくく、別事業として単体で行うものという提言が良い。一度実施して手に負えない事も出てきているので。最後のまとめをもう少し細かく、婚活事業と定住促進事業を別々に分けて考えた方が良い。実施してみて同時進行できる事業ではないという事も結果として盛り込む。島コンをすれば婚活と定住促進も同時進行でできるような雰囲気に見えてしまう。別立てになるような提案の方が良いのでは。

谷会長 : 人を増やすためには嫁を呼ぶか、普通の人を呼ぶか・・・

浅沼委員 : 一本の企画や予算ではきつい部分もある。

谷会長 : 最後の文言ももう少し追記したい。これについては私と事務局でもう少し詰めて、年内には出したいと考えている。

浅沼委員 : 移住者に向けた意識付けを行政に投げかけるという意味ではだいたい良いのではないか。一度、投げかけてどういう反応が返ってくるか位が良い。

谷会長 : そうすれば色々な話が出てくるだろうし、ソフト的な部分でどういうところに力を入れていくんだとか、もう一度話がこちらに落ちてくるかもしれないだろうし。

浅沼委員 : 具体性が無いと言われるかもしれないが、その前に体制を取る上での問いかけをまずする事が最初ではないか。

事務局 : 村の中でも5カ年計画を作って毎年見直しをするのだが、優先順位はあるのでそれをどの位置付けにするかという判断もある。

谷会長 : 5カ年計画も大事だが、子どもを大事にしない市町村は伸びないだろうし、こういうものがあつた方が良いという我々独自の意見で良いのでは。今日の時点で予算には間に合わないのを承知で開催している訳だから。予算の時期等あるが、我々は我々で提言していかないと…おそらくそういう意味でこの組織を作ったのだろうし。

浅沼委員 : 今回の婚活を開催して、そういう移住希望者がいるという報告をして、あとは各課長等を踏まえて村としてどうするのか決めてもらえばいい。

谷会長 : 文書は年内に出す方向で、今の意見を取り入れた形で私と事務局でまとめる。

小島委員 : 本土の奥多摩町でもここまで行っている訳だから、やるなら危機感を持ってやらなければならないと思う。

谷会長 : 御蔵島の出生率が全国2番。それこそ産業があり住宅も整備されてとなったら…。

小島委員 : 人が増え住宅も多く建てており、三宅は造らないだろうが、もしかしたら民間が造るかもしれない。

浅沼委員 : 島内の求人等の意見がない。結構人不足になっているので、内側の人材不足の問題と外側の需要をうまくマッチングできれば良い事ができるのでないかと思う。

谷会長 : 家について、堀井委員どうか。

堀井委員 : 貸家については依然厳しいが、民宿をしている人で、短期滞在型として活用させてもらえるという話がある。また、来年以降、民間でアパートを建てたいという方がいるので、少し良くなってくると思う。

谷会長 : 流れとして婚活を行ってきて、2回目で暮らしたいコースを行い、我々がしなければいけない最重要課題として人口を増やすにはどうしたらいいかという点で、今住宅がないから短期滞在型施設を作ったら良い、それに定住促進をする課を設ける事で我々の後押しになるという部分で辻褃はあってくる。この方向で提案していく事でいいか。後はこの後の流れはどうか？回答をもらう訳ではないし。

事務局 : 今後どのように活動するか。提言だけするのか、他委員会とどう違うのかなど。

小島委員 : 最初はNPOにするはずでそれを一度断ったが、その方が良いとなるかもしれない。

谷会長 : 一度村長に聞いてみる事とする。ただ、今後1、2年が転機だと感じる。フィッシングクラブが止まっていたのに沖山委員もここ最近すごく盛り上げており、島コンも行って色々な人に知れ渡ってきているのでやってみてもいいと考えている。

5. その他について

菊地(直)委員 : 三宮林道にある看板を撤去する事になっているが、昔からある看板でまだきれいな状態で残っており、残してほしいと都に要望してほしい。また、ジオトレッキングや観光で案内するとしても昔の物が残っているのも良いと思う。

菊池委員 : 駐車場にするらしいので残すのは無理かもしれないが、取っおいたり移設したりする事はできるかもしれないので、私から支庁林務係に確認する。

菊地(直)委員 : もう1つは保育園について、入園資格やポイント制などの話を聞いたが、よく分からない部分もあり、待機児童もいる中で保育園の新設等を村の方でしっかりしてほしいという意見を挙げたい。

浅沼委員 : 定員制なので色々と事情はある。

事務局 : 次回までに担当に確認。

6. 次回開催について

谷会長 : 次回は来年1月末か2月初旬を予定。案内は2週間前までに事務局から連絡。